

社外取締役・社内取締役の 役割比較表

 Money Forward クラウド

※チェックリストに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年5月時点の内容となっております。最新の情報はの資料等をご確認ください。

社外取締役と社内取締役とは？

「取締役」には、大きく分けて「社内取締役」と「社外取締役」があります。

社内取締役は、主に会社内部から昇進して役員になった人です。会社の日常業務や内部事情に詳しく、事業を進める中心的な役割を担います。ただ、内部の間人であるがゆえに、客観的な視点や大胆な改革が難しい場合もあります。

一方、社外取締役は、会社と直接的なつながりが薄い外部の専門家などから選任されます。過去10年間その会社の役員でなかったことなど、独立性を保つ厳しい条件が法律で定められています。その目的は、客観的な立場で経営を監視し、運営の透明性・公正性を高め、意見の偏りを是正することにあります。

社外取締役と社内取締役の仕事内容

社内取締役は事業を進めて成果を出す役割ですが、社外取締役には経営の監督や助言、会社のルールの強化、専門知識の活用が求められます。特に上場企業には法律で1名以上の設置が義務付けられています。

さらにコーポレートガバナンス・コードでは、プライム市場で取締役会の3分の1以上、スタンダード市場で2名以上の独立社外取締役の選任が推奨されています。また、不正監視や少数株主の意見反映といった実質的な役割を果たすことが重視され、国も質の向上を後押ししています。

	社外取締役	社内取締役
立場・選ばれ方	会社から独立した外部の専門家。法律やルールで「独立性」が重視される。	主に社内からの昇進。会社の仕事に深く関わる。
主な仕事	経営を見守り助言する。会社の運営を客観的で透明なものにする。会社のルールが守られるようにする。	担当する仕事を進め、会社の目標を達成する。
法律などのルール	【上場企業】法律で1名以上の設置義務。 ルールでプライム市場は1/3以上、スタンダード市場は2名以上の独立社外取締役の選任を推奨	取締役として、会社のために真面目に働く義務がある。

	社外取締役	社内取締役
期待されること	会社の価値を高める（不正を防ぐ、リスク管理、経営アドバイス）。株主と経営陣の橋渡し。色々な角度からの意見を出す。	会社の成長に直接貢献する。組織をまとめ、部門を率いる。

社外取締役と社内取締役の任期や報酬、選ばれ方

取締役の任期は株主総会で決まり原則2年以内。社外取締役は客観性維持のため4～8年が目安です。

報酬は、社外取締役が独立性・専門性に見合う一方（2024年調査の平均年間約746万円）、社内取締役は役職や貢献度等に応じます。

選任は共に株主総会で行いますが、社外取締役の場合は独立性要件をより慎重に審査し、選任・変更時には法務局への登記も必要です。

